7．解説

立会前後の作法

元立ち	掛り手

①木刀を右手に提げ、下座で約３歩の距離で向かい合って正座し、木刀を右脇に刃部を内側に、鍔を膝頭に揃えて置き、相互に座礼をする。

ア．座礼の位置は、下座の中央が望ましい（集団指導の場合は、座礼を省略する）。

イ．正座と起立は、「左座右起」の作法に従っておこなう。正座は、左足を半歩引き左膝、右膝の順に座る。起立は右足から立ち上がる。

ウ．正座や起立時には、跪居（両膝をつき、爪先を立て、踵の上に尻を置く姿勢）の動作から正座となり、または立ち上る。

エ．座礼は両手を同時につく。

②右足から立ち上り提刀（木刀を右手に、刃を上にして自然に提げた状態）のまま立会の間合に進み、先ず上座に立礼、その後、相互に立礼の後、木刀を左手に持ちかえると同時に左手の親指を鍔にかけて帯刀（刀を帯に差すこと。または腰に差した状態をいう。刃を上に柄を前にして鍔元近くを左手で持ち、親指を鍔にかける。）となる。

ア．上座への立礼は約 30 度、相互の立礼は約 15 度で相手に注目して行う。

イ．木刀の持ちかえは概ね体の中央で行う。

ウ．帯刀時の柄頭の位置は、正中線となるようにする。

③相互に右足から３歩踏み出して、蹲踞しながら木刀を抜き合わせ、横手あたりを交差させる。蹲踞は右自然体である。木刀を抜く際は右手で柄の鍔元を下から握り左斜め上から抜き極端に振りかぶらない。

④立ち上って中段の構えとなる。その後、構えを解き、左足から小さく５歩退がり、立会の位置に帰る。

⑤最後の演武が終了したら、蹲踞して木刀を納め、立ち上って帯刀のまま小さく５歩退がり、右手に持ちかえて提刀となり、相互の立礼の後、上座に立礼して下座に戻り座礼をして退場する。

基本１　一本打ちの技「正面」「小手」「胴」「突き」

双方右足から「歩み足」にて３歩前進し、「一足一刀の間合」に接した後、動作を開始する。

「正面」　「一足一刀の間合」に接した後、「面（メン）」の掛け声とともに元立ちの正面を打つ。

元立ち	掛り手
①打つ機会の与え方は、剣先をやや右に開く。 ア．合気で打つべき機会をつくり、正確に打たせる。 イ．姿勢を崩したり剣先を下げたりしない。	①右足を１歩踏み出しながら大きく振りかぶって正面を打つ。 ア．振りかぶりは両腕の間から相手の全体が見える程度とする。 イ．振りかぶった時に剣先が両こぶしの高さより下がらないようにする。 ウ．振りかぶりと打ちが一拍子となるようにする。 エ．「物打」で刃筋正しく正面を打つ。 オ．正面を打った時の左こぶしは鳩尾(みずおち)の高さあたりに納める。 カ．踏み込むと同時に左足を素早く引き付ける。 キ．動作は腰から始動する。
②面を打たせたままの体勢である。	②打った後、１歩後退して中段の構えとなり残心を示す。 ・残心は十分な気位（自信から発する威力、威風）を示しながら相手の反撃に対応できる身構え気構えで行う。
③掛り手に合わせて中段の構えとなり「一足一刀の間合」に復する。	③更に１歩後退して、「一足一刀の間合」に復する。

「小手」　「一足一刀の間合」から「小手（コテ）」の掛け声とともに元立ちの小手を打つ。

元立ち	掛り手
①打つ機会の与え方は、剣先をやや上に上げる。 ・極端に剣先を左に開かないようにする。	①右足を１歩踏み出しながら振りかぶり小手を打つ。 ア．振りかぶりは両腕の間から相手の右小手が見える程度とする。 イ．振りかぶりと打ちが一拍子となるようにする。 ウ．手先だけでなく身体全体で打つ。 エ．目付は小手に注視せず相手の全体を見るようにする。 オ．面打ちと小手打ちとでは踏み出す距離が異なることを理解する。
②小手を打たせたままの体勢である。	②打った後、１歩後退して残心を示す。
③掛り手に合わせて中段の構えとなり「一足一刀の間合」に復する。	③更に１歩後退して、「一足一刀の間合」に復する。

「胴」　「一足一刀の間合」から「胴（ドウ）」の掛け声とともに元立ちの「胴（右胴）」を打つ。

元立ち	掛り手
①打つ機会の与え方は手元を上げる。 ・振りかぶる要領は、手元をまっすぐに大きく上げる。	①右足を１歩踏み出しながら大きく振りかぶって頭上で手を返し、相手に正対して右胴を打つ。 ア．振りかぶりから胴打ちまでの動作は、一拍子である。 イ．体を右斜め前にさばかない。 ウ．腰を引いたり上体をねじ曲げたりしない。 エ．打った時の左拳は正中線上に納める。 オ．刃筋正しく打ち、平打ち（鎬で打つ）にならないようにする。
②胴を打たせたままの体勢である。	②打った後、１歩後退して残心を示す。
③掛り手に合わせて中段の構えとなり「一足一刀の間合」に復する。	③更に１歩後退して、「一足一刀の間合」に復する。

「突き」　「一足一刀の間合」から「突（ツキ）」の掛け声とともに元立ちの咽喉部を突く。

元立ち	掛り手
①突く機会の与え方は剣先をやや右下に下げる。 ア．１歩後退しながら突かせる。 イ．剣先を極端に下げない。	①右足から１歩踏み出して体を進め、咽喉部を突き、突いた後は直ちに手元を戻す。 ア．突き技については、初歩の段階でその基本を理解させようとするもので、手技にならないよう意識的に腰から体を進めて突くようにする。 イ．左足を素早く引き付けながら突く。 ウ．突いた時の左こぶしは正中線上の下腹に納め、上がらないようにする。 エ．刃先は下を向き、突きっぱなしにしない。
②突かせたままの体勢である。	②突いた後、１歩後退して残心を示す。
③掛り手に合わせて、横手あたりの交差になりながら１歩前進して元に復す。	③更に１歩後退して横手あたりの交差になりながら元に復す。

④動作が終ったら構えを解き、双方左足から歩み足で小さく５歩後退して立会の間合に復し、中段の構えとなる。

基本２　連続技（二・三段の技）「小手→面」

（註）原本は『幼少年剣道指導要領』に副って「基本２　二･三段の技（連続技）」と表記してあるが、手引きは『剣道指導要領』に副って「基本２　連続技（二・三段の技）」と表記した。

双方右足から「歩み足」にて３歩前進し、「一足一刀の間合」に接した後、動作を開始する。

元立ち	掛り手
①剣先をやや上に上げて右小手を打たせる。	①右足を一歩踏み出しながら振りかぶって右小手を打つ。 ア．小手に目が移りやすいので、相手の目を見ながら打つようにする。 イ．小手打ちの後は、剣先を相手の正中線から外さないようにする。 ウ．左足を素早く引き付ける。
②左足から１歩後退しながら剣先をやや右に開いて正面を打たせる。 ・剣先を下げて開かないようにする。	②相手の退くところを更に右足を１歩踏み出して正面を打つ。 ・小手を打った勢いを利用して素早く振り上げ、一拍子で正面を打つようにする。
③面を打たせたままの体勢である。	③打った後、１歩後退して残心を示す。
④掛り手に合わせて中段の構えとなり「一足一刀の間合」になる。	④更に１歩後退して、「一足一刀の間合」になる。
⑤掛り手に合わせて１歩前進し元に復する。	⑤１歩後退して横手あたりの交差になりながら元に復する。

⑥動作が終ったら構えを解き、双方左足から歩み足で小さく５歩後退して立会の間合に復し、中段の構えとなる。

基本３　払い技「払い面（表）」

双方右足から「歩み足」にて３歩前進し、「一足一刀の間合」に接した後、動作を開始する。

元立ち	掛り手
①木刀を払い上げられて中段の構えが崩れる。	①右足を１歩踏み出しながら、表鎬（左鎬）を使って払い上げて相手の構えを崩し、そのまま正面を打つ。 ア．半円を描く気持ちで、払い上げ、払いと打ちが一拍子になるようにする。 イ．手先だけで払いがちになるので、右足を踏み出しながら払うようにする。
②払われたままの体勢である。	②打った後、１歩後退して残心を示す。
③掛り手に合わせて元に復する。	③更に１歩後退して元に復する。

④動作が終ったら構えを解き、双方左足から歩み足で小さく５歩後退して立会の間合に復し、中段の構えとなる。

基本４　引き技「引き胴（右胴）」

双方右足から「歩み足」にて３歩前進し、「一足一刀の間合」に接した後、動作を開始する。

元立ち	掛り手
①その場で両手を伸ばして表鎬（左鎬）で応じる。 ア．刃部で受け止めないようにする。 イ．相手の木刀を表鎬（左鎬）で「すり上げる」要領で迎え、その場で応じる。	①右足を１歩踏み出しながら正面を打つ。
②双方やや前進して鍔ぜり合いとなる。鍔ぜり合いは木刀を少し右斜めにして手元を下げ、下腹部に力を入れて自分の体の中心を確実に保つようにする。鍔と鍔でせり合って攻撃の機会をつくる。	
③反発して押し返す（押し上げる）。	③相手の鍔元を押し下げる。
④手元が上がる。	④手元が上がる反動を利用して、左足を退きながら振りかぶり、右足を引き付けると同時に右胴を打つ。 ・手元が上がった機会を捉え、体勢を崩さず刃筋正しく右胴を打つ。
⑤打たれたままの体勢である。	⑤打った後、１歩後退して残心を示す。
⑥双方１歩後退して元に復する。 ⑦動作が終ったら構えを解き、双方左足から歩み足で小さく５歩後退して立会の間合に復し、中段の構えとなる。	

基本５　抜き技「面抜き胴（右胴）」

双方右足から「歩み足」にて３歩前進し、「一足一刀の間合」に接した後、動作を開始する。

元立ち	掛り手
①右足を１歩踏み出しながら正面を打つ。 ア．目付は相手から外さない。 イ．面を打ったままの体勢である。	①右足をやや右斜め前に出しながら振りかぶり右胴を打つ。 ア．足さばきは「送り足」で行い、抜きと打ちが一連の動作となるようにする。 イ．左手は正中線上から外さずに刃筋正しく右胴を打つ。 ウ．目付は相手から外さない。 エ．右胴を打った体勢である。

②打った後、双方とも正対しながら１歩後退し、掛り手は残心を示す。「一足一刀の間合」くらいの交差が適当である。

③その後、双方とも左に移動して元に復する。一歩で元に戻らなくてもよい。

④動作が終ったら構えを解き、双方左足から歩み足で小さく５歩後退して立会の間合に復し、中段の構えとなる。

基本６　すり上げ技「小手すり上げ面（裏）」

双方右足から「歩み足」にて３歩前進し、「一足一刀の間合」に接した後、動作を開始する。

元立ち	掛り手
①右足を１歩踏み出しながら右小手を打つ。 ア．右小手を刃筋正しく打つ。 イ．すり上げられたら手の内を緩め、剣先は自然に体側から外れる。	①左足から１歩後退しながら裏鎬（右鎬）ですり上げ、すかさず右足から１歩踏み出して正面を打つ。 ア．足さばきを正確にして腰を引かない（姿勢を崩さない）ようにする。 イ．「物打」あたりの鎬で半円を描くようにすり上げる。 ウ．すり上げと正面打ちが一連の動作となるようにする。
②正面を打たれた後、同時に掛り手に合わせて、中段の構えになりながら一歩後退して元に復す。	②打った後、残心を示しつつ、一歩後退して元に復する。 ポイント

③動作が終ったら構えを解き、双方左足から「歩み足」にて小さく５歩後退して立会の間合に復し、中段の構えとなる。

基本７　出ばな技「出ばな小手」

（註）「基本７　出ばな技」は、「応じ技」の中に配列されているが、これは技の難易度を考慮して、技およびその構成の７番目に配列されたものである。「出ばな技」は、技の分類としては「しかけ技」に分類されるものである。

双方右足から「歩み足」にて３歩前進し、「一足一刀の間合」に接した後、動作を開始する。

元立ち	掛り手
①右足をやや前に出しながら打ち込もうとして剣先を上げようとする。 ・合気となり、鋭く打ち込もうとする気迫が大切である。	①「起こり頭」を捉え、右足から１歩踏み出しながら小技で素早く鋭く小手を打つ。 ・一瞬の機会を逃さないように姿勢を崩さず身体全体で鋭く打つ。
②打とうとしたままの体勢である。	②打った後、１歩後退して残心を示す。
③右足を退き掛り手に合わせて元に復する。	③更に１歩後退して元に復する。

④動作が終ったら構えを解き、双方左足から「歩み足」にて小さく５歩後退して立会の間合に復し、中段の構えとなる。

基本８　返し技「面返し胴（右胴）」

双方右足から「歩み足」にて３歩前進し、「一足一刀の間合」に接した後、動作を開始する。

元立ち	掛り手
①右足を１歩踏み出しながら正面を打つ。 ア．目付は相手から外さない。 イ．正面を打ったままの体勢である。	①右足をやや右斜め前に出しながら表鎬（左鎬）で迎えるように応じ、すかさず手を返して右斜め前に出ながら右胴を打つ。 ア．すり上げる要領で応じ、応じと返して打つのとが一拍子になるようにする。 イ．左手は正中線から外さずに「送り足」で刃筋正しく打つ。 ウ．目付は相手から外さない。 エ．右胴を打った体勢である。

②打った後、双方とも正対しながら１歩後退し、掛り手は残心を示す。「一足一刀の間合」くらいの交差が適当である。

③その後、双方とも左に移動して元に復する。一歩で元に戻らなくてもよい。

④動作が終ったら構えを解き、双方左足から「歩み足」にて小さく５歩後退して立会の間合に復し、中段の構えとなる。

基本９　打ち落とし技「胴（右胴）打ち落とし面」

双方右足から「歩み足」にて３歩前進し、「一足一刀の間合」に接した後、動作を開始する。

元立ち	掛り手
①右足を１歩踏み出しながら右胴を打つ。 ア．まっすぐ振りかぶり、刃筋正しく右胴を打つ。 イ．目付は相手から外さない。	①左足からやや左斜め後ろにさばくと同時に、刃部の「物打」付近で斜め右下方向に打ち落とし、すかさず右足を踏み出して正面を打つ。 ア．滑らかな足さばきで鋭く打ち落とし、すかさず間合を勘案しながら正面を打つ。 イ．打ち落としと正面打ちが一拍子になるようにする。 ウ．打ち落とす時、相手から目を離さない。

②双方とも正対しながら１歩後退し、掛り手は残心を示す。「一足一刀の間合」くらいの交差が適当である。

③その後、双方とも右に移動して元に復する。一歩で元に戻らなくてもよい。